

# アーカイブに関するタスクフォース・報告書概要①

## 設置の背景:

- これまで、アーカイブに係る取組は、流通する情報量の拡大のためアーカイブの構築に重点があった。
- しかし、我が国文化の海外発信等の観点からアーカイブへの期待が高まる中、継続的な取組の強化のためには、アーカイブの社会貢献(利活用)の明確化と社会基盤としての強化が不可欠。
- また、資料の滅失等に直面し喫緊の課題となっている分野(映画フィルム・ゲーム等)があり、その対応が求められてきた。

## タスクフォース委員:

議長	中村伊知哉	慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 教授
委員	天野ゆに子	株式会社KADOKAWA 角川書店ブランドカンパニー 映像営業局 映像コンテンツ部 部長
	井上由里子	一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 教授
	大場 利康	国立国会図書館 電子情報部 電子情報企画課 課長
	華頂 尚隆	一般社団法人日本映画製作者連盟 事務局長
	國谷 泰道	株式会社DNPアートコミュニケーションズ企画開発部ライセンスグループ リーダー
	杉本 重雄	筑波大学 図書館情報メディア研究科 教授 知的コミュニティ基盤研究センター センター長
	瀬尾 太一	一般社団法人日本写真著作権協会 常務理事
	本田 牧雄	一般財団法人デジタル文化財創出機構 代表理事(凸版印刷株式会社文化推進事業本部顧問)

## 議事:

- 第1回 (2月26日):既存のアーカイブの利活用に向けた現状と課題、有識者ヒアリング
- 第2回 (3月10日):既存のアーカイブの利活用に向けた現状と課題、有識者ヒアリング
- 第3回 (3月14日):アーカイブ構築・拡充に向けた現状と課題、有識者ヒアリング
- 第4回 (4月 3日):報告書案について

# アーカイブに関するタスクフォース・報告書概要②

## 基本的な考え方

- 公的アーカイブは情報社会における社会インフラとしての役割を期待。
- アーカイブの利活用促進のため、情報が届きやすく(見つけやすく)、利活用がしやすくすることが必要である。
- 利活用を図るべき分野を特定するなど戦略的な利活用の活性化を図るべきである。
- アーカイブの構築・運営に係る各機関の体制の強化が望まれる。
- メディア芸術のアーカイブについての充実にに向けた取組が必要である。

## 取り組むべき施策

アーカイブの利活用の促進のために  
～届きやすく、利用しやすく～

### 連携強化のための横断的取組

- (届きやすく) ・分野横断的検索システム  
・目的別利用促進の取組  
-分野別ポータルサイト  
-利用者とアーカイブをつなぐ人材の育成
- (利用しやすく) ・権利処理の円滑化(一元化等)

### 各アーカイブ機関に求められる取組

- (届きやすく) ・連携を目指したメタデータの採用  
・外部ソフトウェア向けインターフェイスの公開や共通化(APIの開放など)
- (利用しやすく) ・二次的な利用の手続の円滑化  
・利活用のビジネスモデルの開発

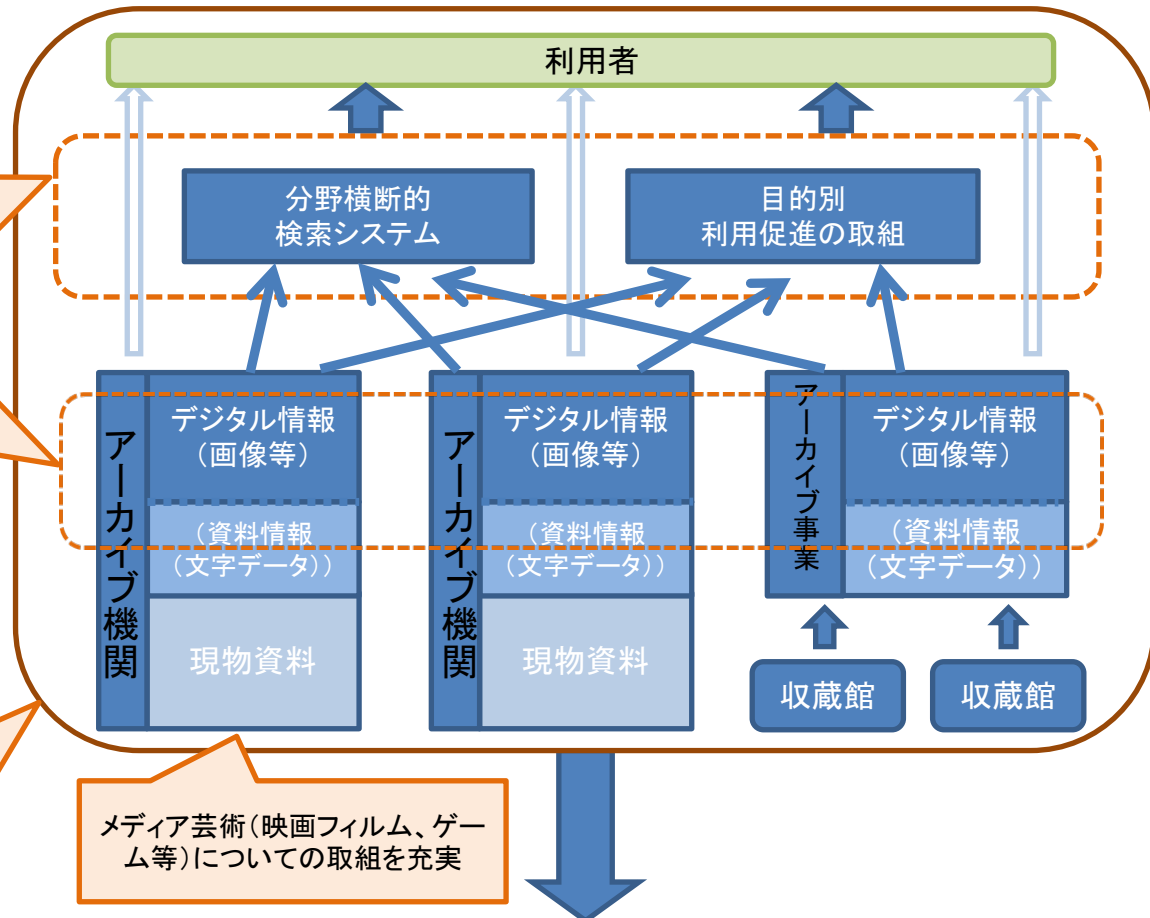
今後のアーカイブの  
整備・拡充に向けて

### アーカイブ促進のための基盤の整備

- ・アーカイブ機関における体制の充実
- ・アーカイブを担う人材の育成
- ・長期保存等の基盤技術の開発
- ・孤児著作物のデジタル化ルール整備などアーカイブに係る著作権制度改善

メディア芸術(映画フィルム、ゲーム等)についての取組を充実

アーカイブの戦略的活用により好循環を生み出す  
～日本文化の海外発信、教育利用を優先して利活用を活性化～



# アーカイブの利活用促進による好循環

(別紙)

